

# するっとTRITON記念インタビュー Vol.1

経済学部 経済学科 澤口隆 教授

## 今も昔も、本や論文に取り囲まれています。ただしデジタルで。



### 紙は紙でいい

自身の研究、ということであれば Science DirectやNatureなど、雑誌論文データベースの活用が一番多いですね。最新号の目次はメールで送られてくるので、そこから気になったものを読んだり、キーワードで検索したり。

自分が大学4年になって所属した研究室の先生から、棚にずら一つと並んだ海外論文雑誌すべてに目を通しなさい、と言われたんです。20年分くらい。その中から、自分の研究に関連する論文を見つけ出していく。研究分野への入り口として、紙媒体の雑誌や書籍は今も有効だと思います。検索するキーワードも知識が前提になりますね。

でもどちらか一方、と言われたらデジタル。理想はもちろん紙とデジタル両方なのですが、「いつでもどこでも」というのはやはり大きな魅力です。

### 元祖ノマドワーカー※です！

博士課程を修了して、すぐに大学で研究室を持たなかったわけではないので、近所の某ハンバーガーショップをはじめ、いろいろな場所でプログラムを書いたり調べ物、考え事をする習慣があります。ノマド歴、長いです(笑)。場所や時間の制約がなければいほど、自由に、効率的に研究や思索が進みます。

大学が契約している数々のデータベースが学外からも接続できることは大変嬉しいです。

※ノマドワーカーとは？ 新聞データベースでことばの使われ方を調べてみよう！

### スマホでレポートもあり

基盤科目の授業で毎回ToyoNet-ACEを使って復習テストを実施しているのですが、学生のほとんどが携帯端末でアクセスしているように感じています。ToyoNet-ACEのアクセスログ解析では、この4年間で携帯端末のアクセス割合が4倍に、PCは半以下になったそうですよ。

ゼミでは例えば、時事問題等に関する一般紙での報道のされかたを比較するために、各社新聞データベースを利用することがあります。従来は、PC教室で行っていましたが、学外アクセスが利用できるようになったら、普通教室で各自の携帯端末から、というやり方でもいいのではないかと感じています。もちろん、これまでも学内無線LANを使用すれば、普通教室で各自の端末から契約データベースを使うことはできましたが、端末設定の要・不要は一つ大きなハードルではあると思います。

難しい設定をしなくても使える。これも先ほど出た「制約を受けない」ということの一例ですね。



最近の大学生はPCを使わずスマホでレポートを書く、という話をどこでも聞くようになりましたね。否定的な論調で話されることも多いのですが、僕は必ずしもそうは思いません。

従来は「紙」や「本」が最終的な提出・公表形態でした。原稿用紙に手書きしたり、紙にタイピングしてプリントアウトして、製本できるスタイルになる。そうしないと、他者に公開できなかった。しかし「自分の考えをまとめて、公表する」これを目的とするのであれば、現在は必ずしも紙である必要はありません。

ブログや指定のWeb領域に投稿・掲載することで前述の目的は達成できることになりますよね。「紙」を考えないのであれば、手書きでも、PCでもスマホでもいいんです。むしろスマホの方が効率が良いとさえいえるかもしれません。

もちろん、最終的に学術論文として仕上げる、ということになれば体裁を整えたり、一定の様式を用いることは必要になりますから、その部分に関してはPCの利用や書き方の指導というものも必要だとは思いますが、お手軽であることは必ずしも悪ではない。劣化でもない。

Input とOutput の習慣化を促すということが教育においてとても重要だと考えています。そのための仕掛けをいろいろ用意していきたいですね。どこからでも情報を入手することができ、それについて考えたこと、気がついたことをいつでも書きとめ、さらに調べ、まとめて発信できる。

データベースの学外アクセス利用は自由で制約のない、学習と研究を促進する大きな武器になります。